

施工前にこの施工説明書をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
施工後は、お客様へご使用方法を十分ご説明のうえ、この施工説明書と取扱説明書をお客様へお渡しください。

安全上のご注意

施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。

人への危害、財産の損害を防止するために、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った施工をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

警告 「死亡または重傷」に結び付く可能性があります。

注意 「傷害または物的損害」に結び付く可能性があります。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

禁止 してはいけない「禁止」の内容です。

必ず実行 必ず実行していただく「強制」の内容です。

警告

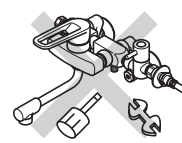
禁止 湯水を逆に配管しないでください。
水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。
必ず給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。



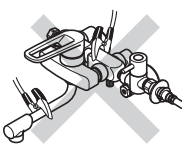
禁止 給湯温度は85℃より高温で使用しないでください。
給湯器の給湯温度は60℃以下の設定をおすすめします。
85℃より高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。



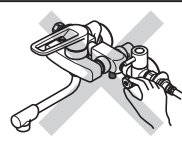
禁止 この商品を構成する部品以外の取り付けや、部品の取りはずし等の改造はしないでください。
器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。



禁止 配管などの解氷のため、解氷機を使用する場合は、水栓には絶対に通電しないでください。
通電すると水栓が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

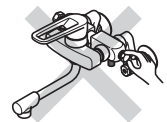


禁止 [寒冷地仕様の場合]
水抜き栓は水抜き以外の目的で開けないでください。
水抜き栓をいきなり開けると高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が噴き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

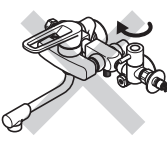


警告

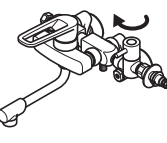
禁止 給湯分岐キャップは接続時以外ははずさないでください。
接続時以外にははずすと、高温の湯が出てやけどをしたり、湯が噴き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。接続する際は、取付店またはKVK修理受付センターにご相談ください。



必ず実行 給湯ホースが接続されていない場合は、分岐止水ハンドルを必ず閉めてください。また、ワンタッチノズルの先端(白い部分)を押さないでください。
高温の湯が出てやけどをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

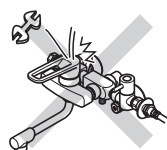


必ず実行 ワンタッチノズルをはずす場合は、分岐止水ハンドルを確実に閉めてからノズルをはずしてください。
分岐止水ハンドルが開いた状態でワンタッチノズルをはずすと、高温の湯が出てやけどをしたり、湯が噴き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

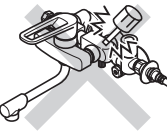


注意

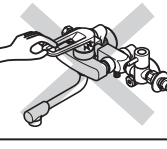
禁止 器具に強い力や衝撃を与えないでください。
器具が破損し、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。



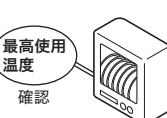
禁止 めっき部品はぶついたり落としたりしないでください。
鋭利な物や硬い物を当てないでください。
めっきの表面が割れてけがをするおそれがあります。



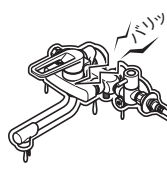
必ず実行 めっきの表面が割れた場合は使用しないでください。
けがをするおそれがありますので、ただちに使用を停止し、新しい部品に交換してください。



必ず実行 食器洗い乾燥機などに接続する場合は、接続機器の最高使用温度を確かめてから使用してください。
最高使用温度より高い温度で使用すると、接続機器が破損するおそれがあります。



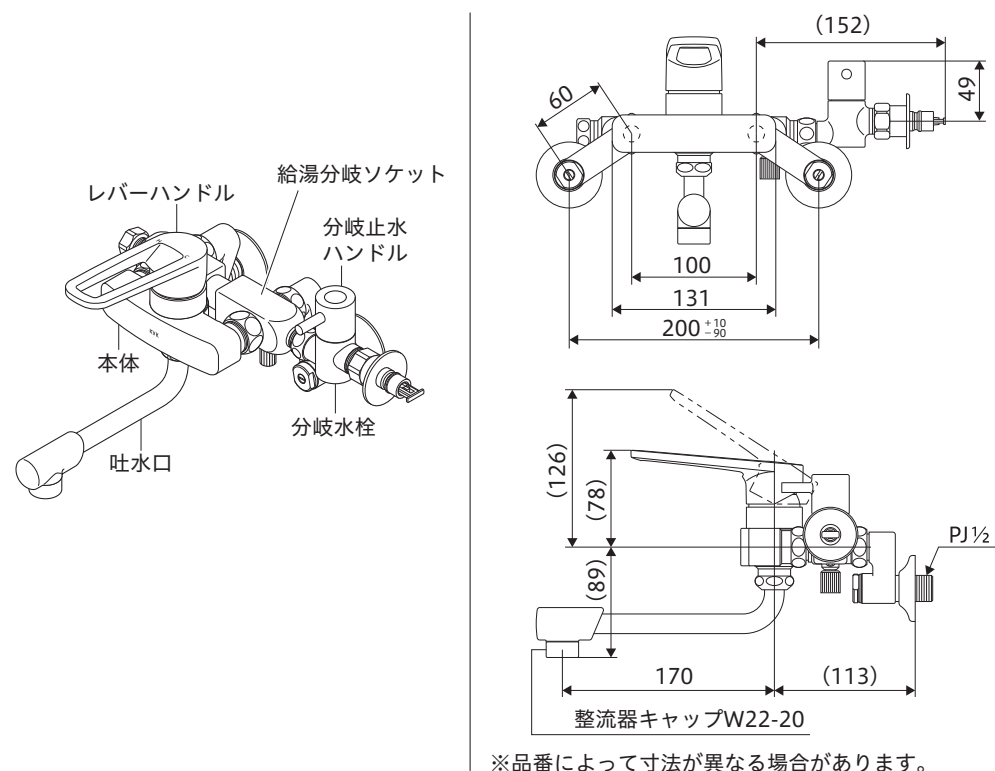
必ず実行 凍結が予想される際は、一般地仕様をお使いの場合は少量の水を出しておくか配管に布を巻くなどして凍結を防止してください。
寒冷地仕様をお使いの場合は配管の水抜き操作と水栓金具の水抜き操作を行ってください。
水抜きしないと凍結破損で漏水し家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。



1 取り付け前に

- ① 使用水圧 (A = (給湯器の最低作動水圧) + (配管圧力損失))
 - (1) 瞬間給湯器との組み合わせ (設定条件 水温: 25℃ / 給湯器温度調節: 高温 / 吐水温度: 42℃ / ハンドル全開) (比例制御式) 最低必要水圧: A+0.05MPa(動水圧)、最高水圧: 0.75MPa(静水圧)
 - (2) 貯湯式給湯器との組み合わせ (給湯・給水圧力) 最低必要水圧: A+0.05MPa(動水圧)、最高水圧: 0.75MPa(静水圧)
- ② レバーハンドルは全開で使用してください。給湯器が着火しない場合があります。
- ③ 誤操作などによるやけど防止のため、給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。
- ④ 給水圧力が0.3MPaから0.75MPaまでは止水弁で流量調節してください。
- ⑤ 給水圧力が0.75MPaを超えるときは、市販の減圧弁で0.2MPa程度に減圧してください。
- ⑥ やけど防止のため、給湯器の給湯温度は60℃以下の設定をおすすめします。
- ⑦ 給湯器からの配管は抵抗を少なくするため、最短距離で配管し、配管には保温材を巻いてください。
- ⑧ 使用諸条件を加味して適正な能力の給湯器を選ばないと、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。
- ⑨ 本製品は、改造(構成する部品以外の取り付けや部品の取りはずし、止水機構を持った市販浄水器具の取り付け等)によるトラブルについては、保証の限りではありません。
- ⑩ 水道水および飲用可能な井戸水を使用してください。
- ⑪ 通水検査をしていますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。

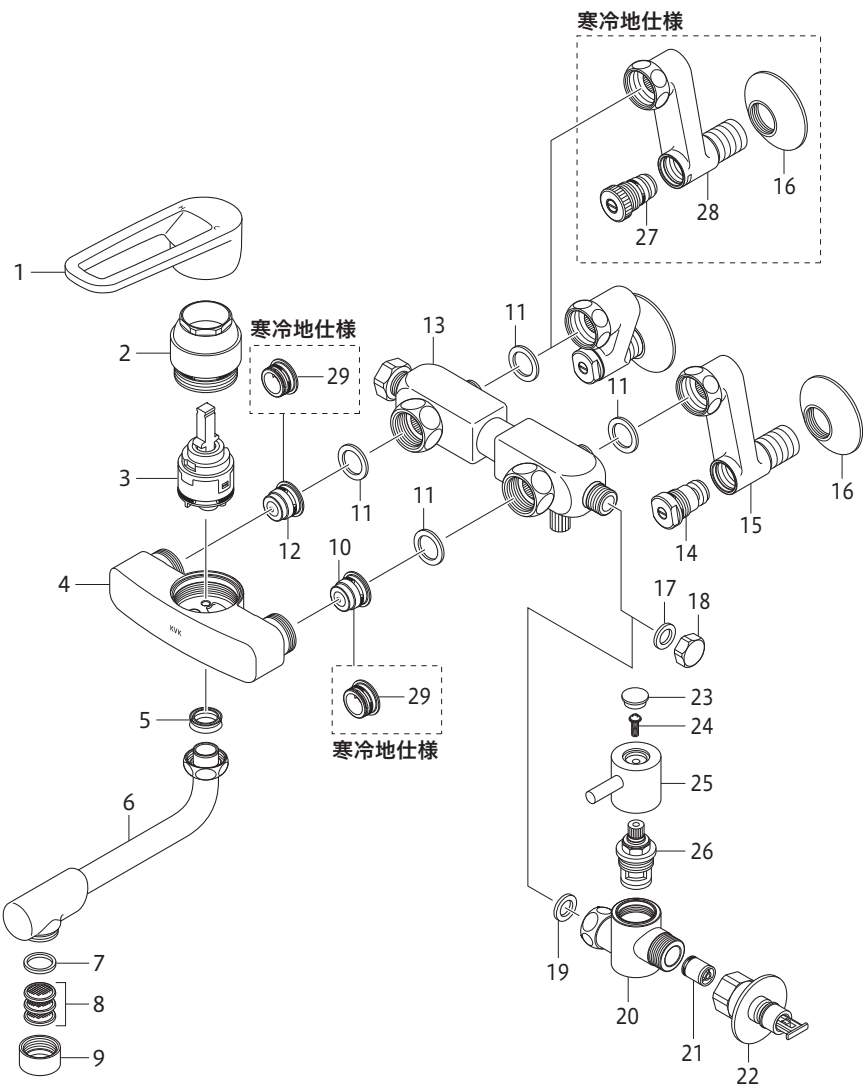
2 取り付け完成図と各部の名称 / 寸法図



※品番によって寸法が異なる場合があります。

3 分解図(部品の形状は仕様により異なります)

この分解図は製品説明図であり、サービス部品の単位を示すものではありません。



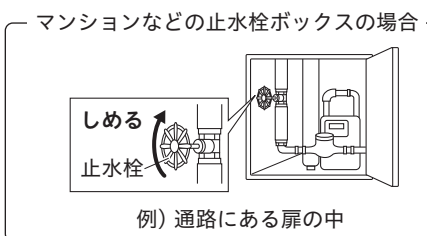
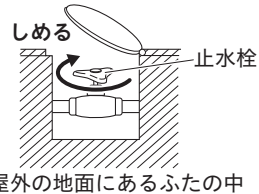
1	レバーハンドル	11	パッキン	21	逆止弁
2	固定ナット	12	湯側逆止弁	22	ワンタッチノズル
3	カートリッジ	13	給湯分岐ソケット	23	キャップ
4	本体	14	止水弁	24	ねじ
5	Xパッキン	15	ソケット	25	分岐止水ハンドル
6	吐水口	16	送り座	26	セラミックバルブ
7	パッキン	17	パッキン	27	水抜き付き止水弁
8	ストレーナ	18	給湯分岐キャップ	28	ソケット
9	整流器キャップ	19	パッキン	29	スペーサー
10	水側逆止弁	20	分岐水栓本体		

4 取り付け手順 1

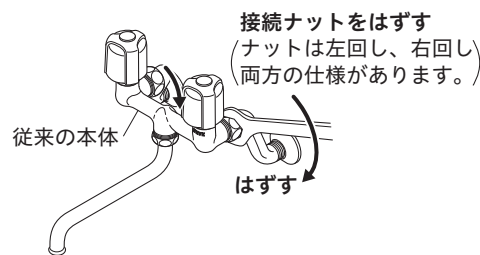
従来品から取り替える場合

※取り替えの際は、取付店またはKVK修理受付センターにご相談ください。

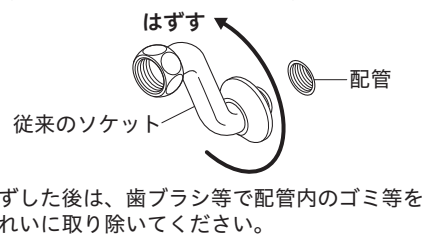
- ① 止水栓をしめ、湯水が出ないことを確認します。
(地域によっては、左回しの場合があります。)



- ② 従来の本体を取りはずします。



- ③ 従来のソケットを取りはずします。
(回した数を控えておきます。)



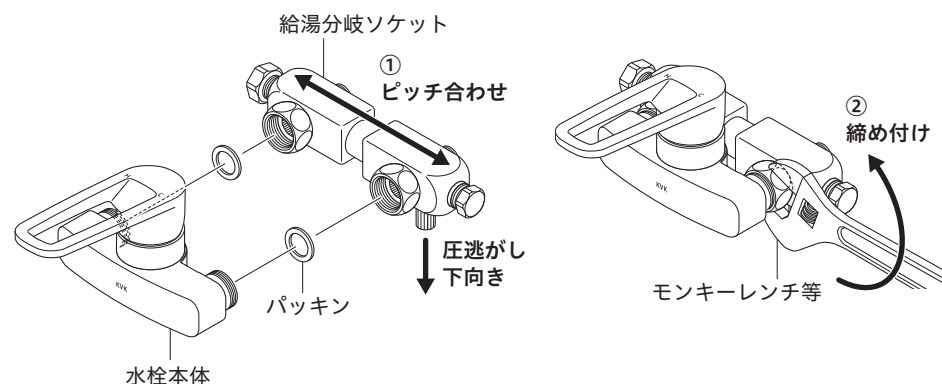
1 給水管内の清掃

配管工事後、必ず給湯・給水管内のゴミなどを取り除いてください。

2-1 給湯分岐ソケットと本体の取り付け

- ① 給湯分岐ソケットのピッチを水栓本体のピッチに合わせます。
② 給湯分岐ソケット(圧逃がしが下向き)と水栓本体の間にパッキンを入れ締め付けます。

【注意】 締め付けは、六角の二面幅に合わせてモンキーレンチ等で確実に行ってください。しっかり締め付けられていないと、漏水するおそれがあります。



5 ページ

2-2

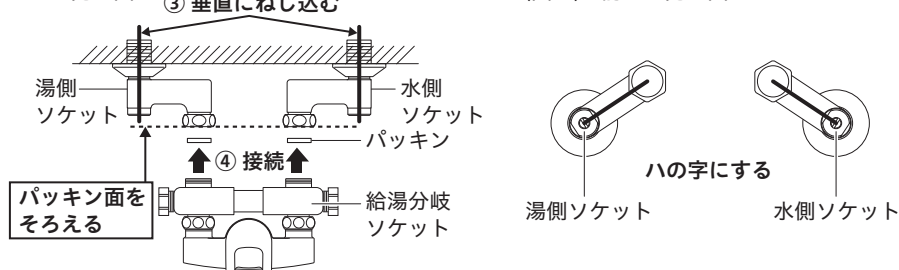
- ③ ソケットのねじ部にシールテープを巻いて、配管に垂直にねじ込みます。

【お願い】 ・図1のように湯側と水側のパッキン面は、段違いにならないようにしてください。
(シールテープの巻き数にて調節してください。)
・図2のように湯側ソケットと水側ソケットは「ハ」の字にして取り付けてください。

- ④ ソケットと給湯分岐ソケットを接続します。

【注意】 締め付けは、六角の二面幅に合わせてモンキーレンチ等で確実に行ってください。しっかり締め付けられていないと、漏水するおそれがあります。

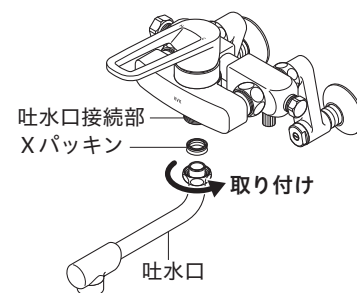
〈図1〉 上から見た図 ③ 垂直にねじ込む ④ 接続
〈図2〉 前から見た図



3 吐水口の取り付け

吐水口を吐水口接続部に接続します。
締め付けは、二面幅に合わせてモンキーレンチ等で
確実に行ってください。

【お願い】
締め付ける際は傷がつかないように、あて布等をして
ください。



4-1 分岐水栓の取り付け

分岐水栓取り付け時のご注意

- 【警告】 ・給湯分岐キャップは接続時以外ははずさないでください。接続時以外にははずすと、
高温の湯が出てやけどをしたり、湯が噴き出して家財などを濡らす財産損害発生のおそれ
があります。接続する際は、取付店またはKVK修理受付センターにご相談ください。
・取り付け後の通水は、必ず分岐水栓に給湯ホースを接続してから行ってください。給湯ホ
ースを接続しない場合は、分岐止水ハンドルを閉めてから通水してください。高温の湯が出て
やけどをしたり、湯が噴き出して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
・給湯ホースが接続されていない場合は、分岐止水ハンドルは必ず閉めてください。
また、ワンタッチノズルの先端(白い部分)を押さないでください。高温の湯が出てや
けどをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
・分岐水栓のワンタッチノズルには緊急止水機能がついていますので、万一給湯ホースがはずれた場合
や給湯ホースを付けない状態では緊急止水機能が働いて通水されません。
・本製品は給湯接続専用です。食器洗い乾燥機に接続する場合、給湯器の設定温度によっては通水接続
しきれない場合がありますので、接続する機器の仕様を十分確認してください。
・接続の場合は、接続する機器(食器洗い機など)の給水条件および施工上の注意事項をよくご確認ください。
・分岐水栓以降に接続された設備については保証の対象外です。
・給湯ホースをはずす際は、必ず分岐止水ハンドルが閉まっていることを確認してください。
通水中に給湯ホースをはずさないでください。万一はずれた場合は、ワンタッチノズル内に圧力がたまり、
再度取り付けの際、接続しにくい場合がありますので「ワンタッチノズルの圧逃し」を行ってください。

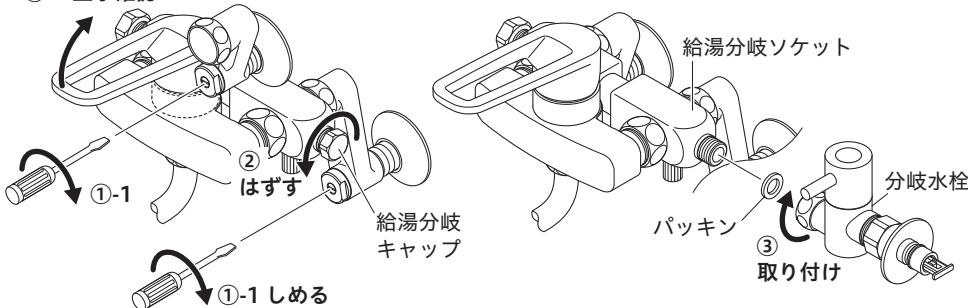
6 ページ

4 取り付け手順 2

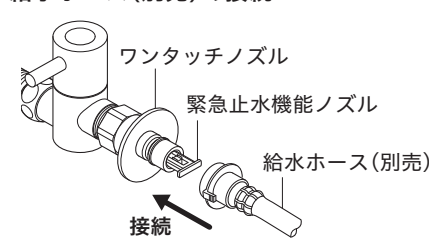
- ① 湯水の止水栓の止水弁または元栓をしっかりしめて、湯水が出ないことを必ず確認してください。
② 分岐水栓を接続する側の給湯分岐キャップをはずします。
③ 給湯分岐ソケットに分岐水栓を取り付けます。

【注意】 締め付けは、六角の二面幅に合わせてモンキーレンチ等で確実に行ってください。しっかり締め付けられていないと、漏水するおそれがあります。

①-2 止水確認

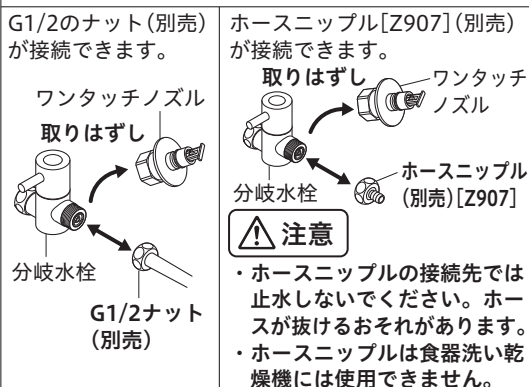


5 給水ホース(別売)の接続



給水ホース(別売)について
【注意】 ロックレバー
日本電機工業会規格JEM1206
に合致しない給水ホース継手は
使用しないでください。通水不
良や水漏れのおそれがあります。

その他の接続例
分岐水栓先端のワンタッチノズルは取りはずしができます。
この場合、緊急止水機能は動きませんので注意してください。



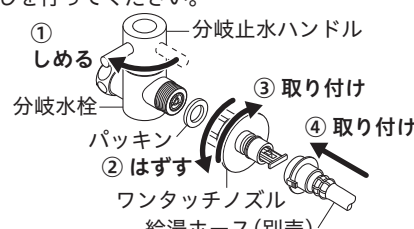
ワンタッチノズルの圧逃し方法

万一通水中に給湯ホースがはずれた場合は、ワンタッチノズル内に圧力がたまり、再度取り付けの際、
接続しにくい場合がありますのでワンタッチノズルの圧逃しを行ってください。

- ① 分岐止水ハンドルをしっかり閉めます。

【警告】 分岐止水ハンドルは確実に閉めてください。
開いた状態でワンタッチノズルをはずすと、
湯が噴き出して、家財などを濡らす財産損
害発生のおそれがあります。

- ② ワンタッチノズルをはずし、圧を逃します。
③ ワンタッチノズルを分岐水栓本体に取り付けます。
④ 給湯ホースをワンタッチノズルに取り付けます。



7 ページ

5 取り付け後の点検と清掃

5-1 通水確認

【注意】 水栓取り付け後、通水して湯水の出し止めに5~6回繰り返し、配管接続部および水栓から水
漏れがないことを確認してください。
確認しないと、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

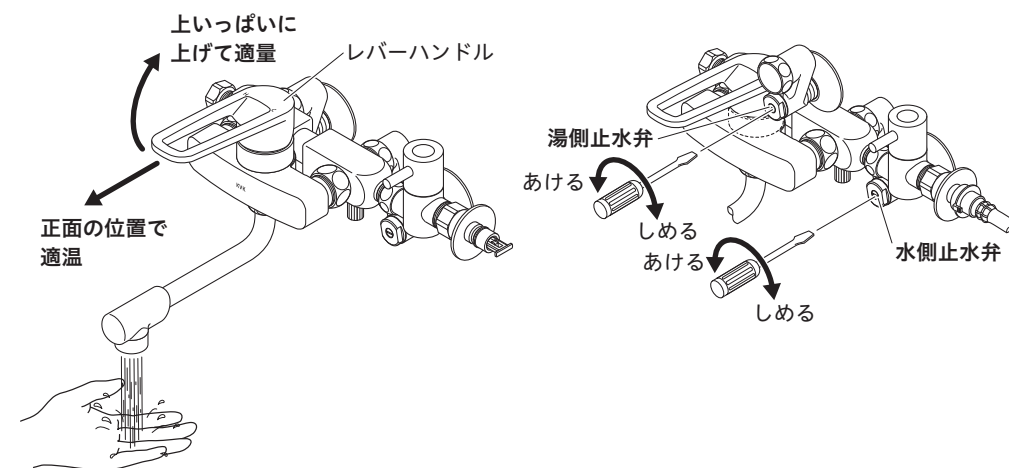
5-2 ストレーナ清掃のお願い

ストレーナは施工後必ず清掃してください。
吐水口のストレーナにゴミ等がたまりますと、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりします。

➡ 取扱説明書「日常のお手入れ」参照

5-3 湯温・流量の調節

下記の方法で止水弁を操作して流量の調節をしてください。
時計回りに回すと流量が少なくなり、いっぱいまで回すと止水します。
また、反時計回りに回すと流量が多くなり、いっぱいまで回すと最大流量となります。
レバーハンドルが正面を向いている位置で適温、全開吐水で適量になるように、止水弁で調節します。



6 故障かなと思ったら

修理を依頼される前にお確かめください。

➡ 取扱説明書「故障かなと思ったら」参照

水栓本体内部のメンテナンスをする場合

【注意】 修理技術者以外の方は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因となります。
水栓本体内部のメンテナンスは、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご依頼くださ
い。

8 ページ

404962-00